

そのとき、80年代末期



宮原 隆史

高校42回 辰野町在住

このたび小生のような未熟者が ひよんなことから、この原稿依頼をいただき、当時のことを思い返しながら書かせていただきました。

今から20年前、世の中がバブル景気に浮かれていた昭和から平成に時代が移り変わっていった頃、伊那弥生ヶ丘高校に3年間通っていたことも、今は昔のことのように思います。・・・

記憶している範囲での当時の時代背景といえば、通学でお世話になっていた飯田線が属する「国鉄」が「JR」へ民営化されたり、国際情勢ではソ連が崩壊したり、(個人的な趣味の範囲では(笑) 音楽の媒体が(逆に今見直されている)「レコード」から「CD」に世代交代していったり、ということも印象に残っています。

思えば、いろいろと変化のあった時代だったように思います。

余談かもしれませんが、この原稿用紙を埋めていてふと思い出しましたが (「流行」というほどでもなかったようにも思いますが・・・) 「曖昧」という意味の「ファジィ」という言葉が当時若干新聞紙面等に載ったようにも思います。

例えば四コマ漫画だったか雑誌のコラムで、店員から「ステーキの焼き具合は (レア・ミディアム等)?」と聞かれた客が「ファジィで！」と答える時事ネタをふと思い出しました。

また、生活面での思い出といえば、土地柄のためか人情味・思いやりのある校風で、今でも会えば 損得抜きのお話を交わせる友達や先輩・後輩とのナイスな出会いに 恵まれたように思います。・・・秋の競歩大会後、学校から駅まで歩くのもやっとのグロッキー状態にもかかわらず、地元の友達に連れて行ってもらった 駅前の「純喫茶」のような佇まいだった〇〇荘で、昔ながらの中華そばを食べて リフレッシュして家路についたこともよい思い出です。

後年、教育実習でお世話になった際にも感じましたが、(在学当時)殆どのクラスの男女比が1:2ということで女性が多かったためか、非常に品のよい校風だったように記憶しております。

そんな思い出も手伝い、数年前、勤務先のOB先輩と 宴会の席で職場内での同窓会をつくろうじゃないか、という話になりました。

ところが、なかなか日々の仕事に追われたりで実現しておりません。

やはり何でも事業を立ち上げ、運営することはなかなか大変なことと思いました。

まとまらない文章になってしまいましたが、このたびの百周年記念事業が、これからの担う後輩や、伝統を築いてこられた同窓生の皆様の、有形無形な明日への夢の梯となることを願ってやみません。